

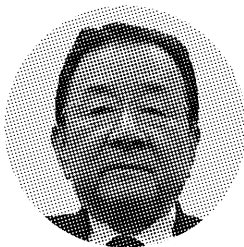
情報管理の重要性と情報流出の危険性が高まる時代だからこそ、若者から高齢者まで全世代が利用できる情報管理ツールが必要だ。多くの事例で障壁になる導入コストや使用感の課題を解決するツールとして開発したが、指紋認証付きICカードだ。長年、研究を重ね、2022年に米マスタートカードのCQM（カード品質管理）認証を取得し、実用化に向けた準備も整った。同カードの普及を通じて情報管理の課題解決につなげたい。

悪用の不安解消

開発のきっかけは、クレジットカード紛失時に経験した悪用への不安だ。利用者はカードの管理会社への利用停止の連

指紋認証付きカード普及を

モリックス社長 久保田 守彦



主張

絡など、紛失時の不安を経験したことがあるはずだ。この悪用への不安を解消したいというのが開発のモチベーションだ。約15年間に及ぶ開発で

情報管理、低コスト・簡便に

は、事業化できるのかわかぬ不安になることもあった。また、今までにない技術であるため理解を得るのが難しかったが、21年にマスタートカードからの認証取得、22年に東京都ベンチャー技術奨励賞受賞と実績を積めた。

開発した指紋認証付きICカードは、カード内のICチップに利用者の指紋情報を事前登録し、クラウドなどを介さず使用時に登録した指紋で認証する。クラウド管理や複雑な認証システム構築などのコストは不要だ。

増えている。クラウド管理などが進む情報社会で、情報流出リスクが高まっている。情報流出防止の対策も講じられているが、スマートフォンなどでの対策を複雑に感じる世代の人は多いのではないだろうか。

近年、特にサイバー攻撃などによる情報流出が

マイナ採用狙う

議論が進むデジタル田園都市国家構想では、マイナンバーカードにさまざまな情報を集約する案がある。今後、情報流出対策など情報管理手法が論点になると見ている。幅広い世代が使用するマイナンバーカードは、使用方法が簡易で、情報流出リスクを低減できるものにすべきだ。マイナンバーカードに指紋認証付きICカードを導入するのが目標だ。

また、同カードはクレジットカードからセキュリティカードまで幅広い用途で使用可能だ。厳格な入退出管理が必要な施設などで実証実験も重ね、23年には実用化された。今後、このカードの認知度を高め、普及拡大させて情報社会におけるセキュリティ向上に貢献していきたい。

（東京都千代田区有楽町2の2の1）

くぼた・もりひこ 62年（昭37）下牧産業入社。94年和敬入社。99年ケーエムレボリューション。05年モリックス設立、10年より現職。滋賀県出身、81歳。